

## 第 36 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 24 年 8 月 28 日(火) 午前 10 : 30～11 : 35
2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 10 名
- 出席委員 8 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、井上光央、桑田政美、須貝昭子、  
高谷和彦、中 宏、中村 保、牧野直子  
以上 8 名
- 放送事業者側出席氏名 岡田 堅治 (取締役)  
大平麻由美 (編成課長)  
野間 公平 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 <sup>てしまじゅうじつ</sup>ハイスクールプログラム「30 分間豊島 充 実 ラジオ」  
2) 審議  
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

## 6. 審議内容

### 1) 番組

#### (1) 事務局より番組説明

おはようございます。残暑厳しい中ありがとうございます。今回は、4つの高校の高校生が週替わりで番組を制作する「ハイスクールプログラム」の第4週を担当している豊島高校の「30分間豊島充実ラジオ」を試聴いただきました。「ハイスクールプログラム」は、今年4月からスタートしました。高校生の声をタッキーではあまり紹介できていなかったため、今の高校生たちの生の声を番組で届けたいという思いで企画いたしました。4つの高校は、箕面東高校演劇部が第1週、第2週が箕面高校放送部、第3週が関西学院千里国際高等部、第4週は豊島高校の放送部と報道部。学校ごとに個性があり、個性・特徴を活かした番組づくりをしてほしいと思い、内容については高校生が自分たちで考えて作っています。こちらからも必要なアドバイスをしながら、一緒に番組を作っています。お聴きいただいた豊島高校の番組では、今回はじめて高校生たちが自分たちで脚本を考え、出演して、編集したラジオドラマを放送しましたので、それをぜひお聞きいただきたいと思いました。よろしく申し上げます。

#### (2) 審議

委員長：それでは、順番に意見をいただきたいと思えます。

委員：高校生ということで聴いていてジェネレーションギャップは感じましたが、ラジオドラマの苦労話が入っていて面白かったです。音楽の選曲はちょっとジェネレーションギャップを感じたところでもあるのですが、たくさんの曲の中からどうしてそれをピックアップしたのかということも聞けたらいいので、たとえば3曲が2曲になってもいいので、真ん中にメインのラジオドラマを持ってきて、初めと終わりに曲を持ってきてその曲を選んだ動機とかエピソードとかを話してもらえると意図が伝わるのでよいと思えます。4人の出演者の声が個性があったので聞きやすかったです。

委員：感想ですが、今の時代を反映しているのか、女の子のほうがハキハキと  
していて、男の子が話しているところはボリュームをぐっと上げないと  
聞き取れませんでした。あと、ラジオドラマも女の子中心で、男性役も  
女の子がやっていましたが、楽しんでつくっているのが伝わるというか、  
プロから見たらいろいろあるのですが、それなりに高校生としては  
まとまった番組づくりをされているなあ、と。あと、この番組自体の対  
象のリスナーは若い子たちという設定でつくっているのがあったので、  
たとえば、高齢者のかたは初めて聴く曲だということも多いだろうし、  
歌詞も聞き取りづらいと思うので、選曲して理由を聞かせてもらったら、  
聴く方も案外若い人たちはこんな曲を聴くんだ、という思いで聞けたか  
もしれません。4つの高校が週替わりということなので、学校のカラー  
が出ると面白いかなと思って聞いていました。

委員：あっという間に聞き流してしまいました。タッキーの番組を聴いている  
と、やや年配のかたが放送、おしゃべりに従事されているような気がし  
ますが、高校生の若い声が響いて、ヒュッと流れていって「もう終わっ  
ちゃったねえ。今なんやったんかなあ。でも、テンポもいいし。聴いて  
いて飽きもこないし…」という感じで聞き流しました。内容は、なんせ  
初々しいというか、自分が年だということもあり、若い子の声がラジオ  
から、それもタッキーから流れているということは素晴らしいんじゃない  
かな、という気がします。こういう風なかたがたも番組の制作に携わ  
って放送をやっているのだなということ、聴いておられるかたに知っ  
ただけはよかったという気はしました。

委員：高校生らしい番組で、これでリスナーを増やせるなあ、とヒントに感じ  
たことがひとつありました。僕らがラジオを聴いていた時代、割とラジ  
オドラマは楽しみに聴いていた印象があるので、子どもたちが今回ラジ  
オドラマを作っているのをきいて、こんなことする子がいるんだと思  
いました。今どきそんなのいないだろうな、と思っていたので。そうい  
うのをタッキーの番組の中で特番というか年に1回のシリーズで良いと思  
うんですが、「高校生のラジオドラマコンクール」とつなげていくとリス  
ナーが増えていくのかな、と思いました。それが時間がかかったり、録

音や指導なども大変だろうと思うので、難しければ、高校生らしい選曲をされていたので、箕面市内の小中高生がリクエストする番組にしても面白いかな、と。それと 50 代 60 代のシニアのリクエストコーナーをつくるとか、そういうふうリスナーを増やしていく方法もあるのかな、と思いました。

委員：やっぱり高校生の番組ということで、テンポの良さというのは若者独特のノリが表れていて良かったのでは。音楽も AKB、ZONE、水樹奈々…割と今時の真面目な子が聴くような曲ですよ、どれも。あと、話し手のマイクレベルが低くて聞き取りづらかったというのは共通の意見かと思います。受け手のかたはシャキッとしていて聞きやすかったですが。それから終始女性がリードしているというのは耳につくかな、と。それと、ラジオドラマをやっているのが標準語というのが。もしこれが大阪弁だったら、それが良いか悪いかは別として、聴いている方としては関西の番組として非常に聞きやすく、身近な感じがしたのでは、と思います。番組全体としては、ジングルもちゃんと入って番組らしさということも打ち出していたのは、ちゃんとひとつ未来を考えてやっているというイメージにつながっていました。

委員：放送部が女性で、報道部が男性ということですよ？放送部の女性陣はきっちりやっていたかと思いますが、報道部はそういうところにあまり気を使わないんですよ。タッキーでは教えたりはしたのですか？

事務局：いろいろアドバイスはしています。

委員：やはり報道部の 2 人はマイクロホンへの意識があまりなかった気がします。一生懸命やっているんだな、ということは伝わりました。この人たち将来何をやるのかな、放送部・報道部にまた入るのかな、ということを感じました。30 分、ちょうどいい時間ですね。  
マイクロホンへの意識は小学生には無理だろうが、高校生は、機械の使い方も含めてアドバイスしてあげたら良いかと思います。

委員：マイクは 1 人 1 本あるわけですよ。すると当然マイクテストもやって

いるはずですよ。男性の声が聞こえなかったのは、そこでのミス、技術的ミスではないのかな、と思ったのが一点。それからもうひとつは、番組を審議するにあたって何度も聴くんですよね。委員からの意見で「すーっと聴いた」というものがありました。そういうときにどうなのかな、と。ここがすごく気になった。そこをピンポイントで狙って何時の番組を聴こうと思って聴くと、たまたますっと聴いてしまってあの番組何だったんだ、という部分で狙って聴くように持って行かないといけないのかな、と。リスナーを増やすという意味でも。そうしたときに気になったのは3つ目の点。番組表と中身を紹介している情報紙「まちの情報箱」との連動がないということ。「まちの情報箱」は毎月発行されているんですよ。番組のゲストの紹介などいろいろ書いていらっしゃるんですけど、ここにどうして番組表がついてないんだろう、と。その連動でこれ面白そうだから何時にやってるのかな、と見られるようにするべきではないかな、というのが一番気になった点です。いろいろ試聴番組をいただいて、全部良いんですよ、1つ1つ聴くと。もっともっと他の人にも聴いてほしいなあという番組だけ選んで審議会にかけて頂いているわけなんですけれども、ところが全体の中で言うと、それがいつ放送されているのか、どんな中身なのか。特に我々以外の人にはなかなか周知できていないのでは、と思っています。ぜひ、そうしていただければうれしいなあ、と思います。お金の面で言えば、他局はやっぱりスポンサーをとりながらやってらっしゃるとか、いろいろな努力もしてらっしゃいます。夏休みは夏休みらしいスポンサーをとってくる。福井県の観光施設のスポンサーもとってきて、その紹介もしながらやっている。大変だとは思いますが、外注することも含めてぜひ検討されたらどうかと思いました。

委員長：年2回の番組表は、あれはあれでよいと思うのですが、目玉とかイチオシの番組を、情報紙に形を変えて毎回掲載する、というのも新しいやり方かと思います。それを含めて検討していただけますか。

事務局：はい。

委員長：私もこの番組を聴かせていただいてちょっとびっくりしました。今の若い人はすごくいろんな面でエネルギーを持っていて力があるなと感心し

ました。高校生がこんなすばらしいことができるのかと。それも、番組を作って放送して、ここまで自分たちで進めていく。こんなことまで考えているのかと感じました。委員のみなさんがおっしゃったように、女性が前に出て、かえって女性がリードして引っ張っていつているような感じで、それがものすごく嫌みなく心地よくテンポよくスムーズに流れている感じがします。若い人の良さがものすごく上手に表現されているな、と思いました。あらかたのことができるので、スタッフが少し手を入れて、これからも常設的に放送していてもよいのではないかと私個人的に思います。どんどん取り入れて、若い人のエネルギーや考えを聴かせていただいて活かしていくよい機会かな、と思いました。多少の意見はあるでしょうが、全体的に好評いただき、苦勞なさった甲斐があったのではと思います。番組担当者として、その後の展開や思われたこと、展望などはいかがでしょうか。

事務局：今回は豊島高校の番組を聴いていただきましたが、ほかの学校もそれぞれの個性を活かした番組を放送しています。ラジオドラマ、ということではいいですと、箕面東高校の演劇部が毎回ラジオドラマを、それも自分たちのオリジナルの作品を、放送しています。そういった点も含めて、ほかの学校の放送も聴いていただきたいな、と思います。4月からスタートしたばかりで、担当している高校生たちも3回とか4回しかしていないのでまだ経験も浅いですが、これからさらに経験を積んで内容を発展させていってほしいと思っています。その中には、学校で活躍している人や先生へのインタビューも入ったら面白いな、と思っています。そういった中でひとつの課題としては高校生たちが取材して録音して編集しなければいけないので、ノウハウが必要になります。これから、タッキーで持っているそういったノウハウを伝えていけたら、と思っています。それが課題です。

委員長：なるほど。これからどんどんそういった部分を伸ばしていただいて、みなさんに元気を分けていただくのが良いかと思います。

委員：私からも。ちょっと気になったというか、できるんじゃないかな、と思ったのが、今4校入っていますよね？まだまだ箕面市内から通っている

近隣の高校はあると思ったので、きっとそういう放送部もあるので、これを聴いたら「うちの放送部もやりたい」という声が出てくるのではないかと、というのがひとつと、どういう思いで番組を作っているかとか苦労話や裏話を、それぞれ高校生たちがほかの高校の放送部にインタビューするなど、タッキーがやるとなかなか大変だろうから、高校生同士でそういう機会を設けるなり交流会を設けてそのようすを放送するのも面白いのでは。

事務局：実は交流会なのですが、4校が週替わりですので、第5週は特別企画として4校が合同で番組制作を行っています。「ハイスクールサミット」というタイトルで。

委員：それが聴きたかったです！

事務局：4校からと、実はもう1人、土曜日に自分の番組を持っている坂本君という豊中高校に通っている高校生がいるんですが、特別ゲストで入ってもらって高校生同士で自由に話をしてもらっています。「どういう風に番組つくっているの？」とか各学校でどのようなことが話題になっているか、とか「もうすぐ文化祭だね」という話をしてもらっています。実は今の4校に落ち着くまでにはかなり紆余曲折がありまして、番組を最初に企画したときに、箕面の放送部で全国大会に常連で出ているところといえば、聖母被昇天学院高校、それから箕面自由学園高校だと、真っ先に声をかけたのですが断られました。(一同笑い) 忙しいという理由でした。

委員：毎月出すのも大変ですね。

事務局：それで1校1校声をかけていって、その中に渋谷高校もありました。生徒たちは「やりたい」と言ってくれたのですが、全国大会の準備がある期間は忙しくてとても番組なんてつくれない、ということで最終的にダメになりました。それで今の学校に落ち着いています。ですので、今後やりたいということを手を挙げていただければ考えていきたいと思いますが、そういう経緯がありました。

委員：ではこの4校から、タッキーの番組で培った技術を活かして全国大会に…となるといいですね。

事務局：実は、今回箕面高校が惜しいところまで行きました。ほんとうにぎりぎりで、来年はたぶん行けるのでは、と思っています。

委員：せっかく地域のラジオ局があって、ラジオを通して発信できるというツールをもっているの、高校生たちもまたひとつのステップにしてもらえたら、と思います。今後楽しみにしています。また「ハイスクールサミット」があるというのを今お聞きしたので、いちど聴いてみようと思いますし、聞き逃しても日曜日に再放送がある。やはりさっき話があったように、知っている、分かっているとこれ聴いてみようかな、となりますがせっかく放送していてもその取り組みが分からないと流れていってしまう。そういう情報もみんなタイムリーに知っていれば。

委員長：ほかの高校は全国大会で忙しくて無理だ、という話でしたよね。でも、何かの機会にそういったところも、毎月だと大変なので、年に1回または半年に1回、番組制作するチャンスというか枠を持ちながら参加していただくなどしていただければ、他の高校がそれを見聞きして、自分たちもがんばってレベルアップを図りたい、となりますので、そういったことも考えながら場を広げていただいて仕組んでいただいたら良いかと思しますのでよろしくお願いします。また、毎月の情報紙で番組表を載せていくと分かりやすいと思うので、よろしくお願いします。次に、何でも良いので、意見はありますか。

委員：パーソナリティは何人いるんですか？トータルすると。毎日月曜日から日曜日までいろんなパーソナリティがいらっしゃいますよね。

事務局：20人ほどです。

委員：基本的にはやはりリスナーを増やそうと思ったらファンづくりでしょう。ファンづくりをどうやってやるかといったら、パーソナリティを知っていただくとか、そういうことも必要かなと。全パーソナリティの紹介が



載っている番組表を出してみると、もっと身近になるのかなと思います。

委員長：今仰ったように、声を聴いていて相手の顔が浮かばないというのは、何か親しみがわからない。何かの機会に顔を出して、番組と連動させたら良いのではと思います。いちばん大事なのはファンづくりなんですからね。だから顔を出して、ファンをつくって行って、また、そういう人から発信していくのが大事かなと。大いにそういったポイントも気をつけながらお願いします。

事務局：はい。

委員：市議会議員選挙が終わって新しい議員が決まって9月から議会が始まるのですが、今回私がショックだったのは投票率。最低なんですね。特に「議会」というと箕面市民には見えにくい。過去に全議員に1人ずつ「どんな思いでやっているのか？」とか「趣味は？」とか、割と生の声を聞く時間をラジオでとっていただいたことがあるのですが、これから9月の議会を迎えると、特に新人議員はカルチャーショックがあるんですね。えーってということがいっぱいある。ちょっとそういう新鮮な声も含めて、時間を限って、すべての議員1人1人にインタビューをすとか、なにかもうちょっと議会への関心を高める、ということを放送でしていただけたら。もちろん一般質問などで議会放送をさせていただいているんですが、一般質問はほとんど出来レースのやりとりなので、もうちょっとその人の生の声が出るような引き出し方、パーソナリティのかたが引き出してくれたら、と思います。親しみが湧くように。議会に対する関心を高める取り組みをタッキーとしても取り組んでもらえないかと思います。

事務局：議員さんのコーナーを放送するにあたっては、順番は抽選で決める、全員同じ環境でなければならない、質問事項は同じ、と制約が多いですが、次の4年間の箕面をお任せする議員さんなので、生の声をお聞きするというのは大切かなと思います。

委員長：それでは長時間ありがとうございました。番組審議会を閉会いたします。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 24 年 8 月 28 日

箕面FMまちそだて株式会社      番組審議会